

会 見 記 録

件名	令和3年1月27日町長定例記者会見
日時	令和3年1月27日(水) 10:00~10:30
場所	丸森町役場 庁議室

出席者

- (町) 保科町長、佐々木副町長、大内復興対策監、佐藤総務課長、谷津保健福祉課長、八巻建設課長、日下被災者支援室長、引地復興推進室長(司会)

■保科町長

令和3年1月27日 町長記者会見コメント

本町に甚大な被害をもたらした令和元年東日本台風災害の発生から1年と3か月が経過いたしました。改めて、犠牲となられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、発災から今日まで、深い御理解と多大なる御支援をいただいております国、県、全国の自治体及び各関係団体の皆様に、心から厚く感謝申し上げます。

新年を迎え、1回目の記者会見となりますが、令和3年の始まりに当たりまして、私から所感を述べたいと存じます。

令和3年は、台風災害からの復旧・復興を成し遂げるべく策定した「丸森町復旧・復興計画」の2年目の年であり、昨年以上に取組を加速し、町民の皆様の期待に応えていく必要があります。

私といたしましても、被災された方々が、どのようなことを町に期待されているのかを伺うべく、今月の12日から18日にかけて、町内6箇所にあるプレハブ仮設住宅団地を訪問し、各団地で実施しているサロン活動の場をお借りして、入居者の皆様と懇談いたしました。

総勢36名の皆様とお会いし、様々な御意見や日々の生活の状況について、直接お話を伺うことで、皆様の復興への想いを感じることができました。

多くの御不便を強いられているにも拘わらず、町を取組や支援団体などに対する感謝の気持ちを頂戴したほか、発災当時の避難行動や河川等の復旧に関する御意見、住宅の再建に向けて不安に感じていることなど、被災された方々が抱える率直な想いと、町に対する期待の大きさを痛感し、ますます、復旧・復興の取組に邁進しなければならないと強く心に誓いました。

また、不慣れな生活の中でも、一人暮らしの方を気遣いながら、サロン活動の輪を広げている様子や、仮設住宅を退去した後も、仮設団地の活動に参加していることなど、入居者の皆様が協力してコミュニティを形成している様子を知ることができ、被災された方同士の、心温まる交流を大変嬉

しく感じております。

町といたしましても、このようなコミュニティ活動は、非常に重要なものと考えており、今後も継続して支援していくとともに、町民の皆様の一日も早い生活再建に向けて、全力で取り組んでまいります。

次に、本町における復旧・復興事業の進み具合を、公共土木工事や生活再建施策などの分野毎にとりまとめた「復旧・復興の進捗状況」について、お手元に配布しておりますとおり、令和2年12月31日時点の数値に更新いたしました。

前回公表の令和2年9月30日時点の状況と比べますと、被災家屋の公費解体事業や民有地における堆積土砂撤去事業が完了したほか、被災した町営金山住宅及びコーポ金山住宅、計12戸の修繕工事が完了するなど、着実に復旧・復興事業を推進しており、本年も町の復興がより身近に感じられるよう、国・県とも連携し、成果を上げていきたいと存じます。

また、本町のホームページでは、町内における公共土木施設の災害復旧工事の進捗状況について、工事箇所毎に地図上で確認することができますので、そちらも御参照いただきたいと思います。

次に、災害対策基本法に基づき策定している「丸森町地域防災計画」は、令和元年東日本台風災害で得た教訓や、昨年6月に災害検証委員会から御提言をいただいた改善内容等を反映するため、発災後、改訂作業を進めており、今般、国・県などの関係機関や住民代表等で組織する改訂検討委員会での協議を経て、当該計画の改訂案を作成しました。

なお、広く町民の皆様から御意見を伺うため、昨日から2月5日まで町のホームページ等において改訂案を公表し、パブリックコメントを募集しております。

今後につきましては、パブリックコメントでいただいた御意見等を踏まえ、「丸森町地域防災計画改訂最終案」として取りまとめることとしております。

続いて、今月10日に開催した「令和3年丸森町成人式」では、新型コロナウイルス感染症対策に御協力をいただきながら、対象者120名のうち87名の新成人の皆様にご参加いただきました。

新成人の皆様には、昨年同様、復旧・復興計画の概要版をお配りしましたので、町の目指す復興の姿を共有していただけることを期待しつつ、この日集った若い力が、町の未来の力となって現れる日が来ることを願っております。

次に、消防車両の贈呈式についての御案内になりますが、蔵王町から本町へ消防車両1台が寄贈されることから、今週の29日金曜日10時から贈呈式を開催します。

贈呈式へは、私も出席するとともに、蔵王町の村上英人町長にお越しいただき、御挨拶をいただくこととしております。

続いて、仙台市の「地産地消市場 仙臺いろは」において、今週の29日金曜日から2月4日の木曜日まで、本町の特産物である、干し柿やへそ大根などを販売する「丸森の特産いち」を開催いた

します。

多くの皆様に町の特産物を御購入いただき、御自宅などで丸森の味を楽しんでいただきたいと思います。

次に、町内における新型コロナウイルス感染者の発生と、ワクチン接種に関する対応について報告いたします。

全国的な感染拡大が続いている新型コロナウイルスにつきましては、本町でも今月22日に1名の感染が初めて確認されました。感染された方に対しましては、心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早い御回復をお祈りいたします。

その後今日まで、新たに感染された方は確認されておりませんが、町民の皆様におかれましては、町内での新たな新型コロナウイルス感染者の発生防止に向けまして、「感染リスクの高まる5つの場面」をできるだけ回避するほか、マスクの着用や丁寧な手洗いの実践など、お一人おひとりの基本的な感染予防対策への御協力をお願いいたします。

また、感染された方の特定や、不当な差別・誹謗中傷などは絶対になさらずに、冷静に行動されるよう重ねてお願いいたします。

なお、新型コロナウイルス用ワクチンの予防接種事業につきまして、本町においても、その実施に向けた作業を着実に進めるため、2月1日から保健福祉課内に対策チームを設置することといたしました。メンバーは7名で、このうち2名を保健師とし、保健福祉課と丸森病院の職員で構成することとしております。

あらためまして、令和3年は、町民の皆様の期待に応えるべく、職員一丸となって復興の歩みを加速しながら、新型コロナウイルス対策や少子高齢化及び人口減少等、町が直面する難題に向き合い、持続可能なまちへと発展させるべく、真摯に取り組を進めていきたいと存じます。

最後に、発災から本町を御支援いただいている多くの皆様に対しまして、深く感謝申し上げますとともに、引き続き、御支援を賜りますよう、よろしくをお願いいたします。私からは以上です。

(質疑応答)

◇Q 農地の作付けシーズンを迎えるが、「復旧・復興の進捗状況」(以下、進捗状況とする)を見ると、町の手掛ける農地の復旧事業の着工率が、9月末に引き続きゼロとなっている。この春も多くの農地で(水稻の)作付けができない状況が町内では続くのか。

■町長

県の実施する農地復旧事業は進んでいる一方で、町の実施する中山間地の被災箇所の復旧には遅れがあり、大変申し訳なく思っております。町が実施する分は6月までには着工を終えるよう事業

を進めておりますが、これらは春の作付けは厳しいと思います。町としましては、できるだけ早く着工し、少しでも多く作付けできるよう頑張っております。

■建設課長

進捗状況のデータでは、町が実施する分としては12月末現在、着工率がゼロとなっておりますが、1月に入り一部着工したのものもあるので、直近では8.2%の着工率となっております。

また、農地の復旧事業は県の事業として実施している分（丸森地区・大内地区のそれぞれ平坦部）もあり、資料の5ページに記載のとおり進んでおります。これらのうち大内地区及び竹谷地区の一部では、この春にも作付けが可能となる見込みです。

なお、昨年12月には、（町が農地の復旧事業を実施する）中山間地の農家の方を対象とした座談会を開催し、今後の作付けに向けて農地復旧の進捗状況等を説明したほか、令和3年度中は工事が完了せず、水稻が作付けできないことについて理解を求めました。

◇Q 竹谷地区では、畦道や農地の輪郭が見えてきているが、あの辺りがこの春に作付け可能になるのか。

■建設課長

その竹谷地区は県で復旧事業を実施しており、作付けに向けて農家とも話をしながら進められております。ある程度の箇所についてはこの春に作付けが可能となる見込みです。

◇Q 町実施の農地復旧事業について、着工が遅れている要因はなにか。

■建設課長

農地の災害査定は、モデル方式（現地調査が困難な地域において、近隣の現地調査が可能な地域をモデルに机上査定を受けるもの）により行われ、工事発注の際には改めて他の被災箇所の現地調査を行う必要があったため、期間を要しました。また、（町民の生活に影響がある）公共土木事業（道路・河川）の方を優先して取り組んだことや、請負業者の不足等もあったことから工事発注の遅れにつながりました。

◇Q 農地復旧箇所について、県と町の分担はどのように決めたのか。

■建設課長

県は町中心部や大内地区などの平坦部で面的な被害を受けた箇所を担っていただいております。町はそれ以外、主に中山間地を実施しております。

◇Q 町が実施する農地復旧について、令和3年6月までの着工を目指すとするが、町の分全部の着工を目指すということで良いか。

■建設課長

町が実施する全部の着工を目指します。ただし一部、河川工事との調整が必要な箇所も発生すると認識しております。

◇Q 地域防災計画の改訂について、最終案をまとめるのはいつ頃か。また最終案のとりまとめをもって、改訂が完了するのか。

■総務課長

現在、改訂にかかる中間案を作成し、その考え方についてパブリックコメントを募集しております。今後は、来月の中旬頃に改訂検討委員会を開催し、最終的な取りまとめを行ったうえで、国・県等の関係機関との事前調整を経て、町の防災会議で決定し、改訂（正式には修正）が完了する流れとなっております。今のところ、今年度内である3月中に改訂を完了したいと考えております。

◇Q 修正部分は多いのか。

■総務課長

詳しくは町のホームページにも公開しておりますが、災害検証委員会から提言をいただいた中で、早急に対応しなければならない課題に関する修正ということで、大きく分けると5項目あります。

例えば避難情報の発信のあり方や、避難所・避難場所の見直しや運営の見直し、災害対応職員の配備体制の見直しなどが中心になっております。加えて、町民の防災意識の高揚に関する事項などがあります。また、上位計画である国の防災基本計画及び県の地域防災計画との整合性をとる修正や、名称等文言の修正もございます。なお、今回は風水害対策に限定した改訂となります。

◇Q 地域防災計画の改訂検討委員会は、今回の改訂のために組織されたのか。

■総務課長

昨年、災害検証委員会を立ち上げて、6月には提言を頂戴しましたが、その委員会の主要メンバーの方に今回の改訂委員会に入っていただき、計13名の方に委員として改訂にかかる協議に参加いただきました。委員長は東北大学の柴山准教授です。

◇Q 蔵王町から消防車両の贈呈があるということだが、この時期に寄贈を受けるきっかけなどを教えてほしい。

■総務課長

贈呈いただく車両は、小型動力ポンプ付きの軽積載車1台ですが、今般、蔵王町さんで消防車両の更新があったため、更新前の車両について寄贈の話がありました。当該車両は走行距離も短く使用可能とのお話であったため、ありがたく頂戴することとしました。

◇Q 新型コロナウイルスワクチン接種の対策チームの正式名称を教えてください。

■保健福祉課長

正式名称は、「新型コロナウイルスワクチン接種対策チーム」です。

◇Q 丸森病院の職員も構成メンバーとの話であるが、保健福祉課と病院の兼務となるのか。また、当該職員は事務職か看護職か教えてください。

■保健福祉課長

この対策チームは、辞令等の発令は行わないこととしており、丸森病院の事務の職員1名が配置されます。病院の本来業務に従事しながら、ワクチン接種の業務対応にあたります。

◇Q 保健福祉課において1名増員と考えてよいか。

■保健福祉課長

保健福祉課に兼務ということではなく、ワクチン接種の中心となっていくと考えられる丸森病院の職員も、対策チームに入るべきという判断で、病院に席を置きながら業務上の兼務という位置づけになります。

◇Q 災害ゴミの処理状況について、100%となっているが、被災家屋の解体にかかるゴミは一部残存しているのではないか。

■復興推進室長

進捗状況の7ページ記載のものは、(町民グラウンド等に山積みになっていた)いわゆる災害ゴミの処理状況であり、家屋解体に伴うゴミ処理の状況は、別に配布している資料4ページのとおり一部残っているという状況です。